

トラック7 「遠くに行かれてしまう僕のお義姉様」

「どなたですか」

（こんな時間に何の用だ？）

「あ」

（お義姉様の声!?)

「お義姉様！」

「いかがなさいましたか？」

「こんな夜更けにお知らせもなくいらっしゃるなんて、お珍しい」

「あう？」

「あ、はい！ 多分、今年だけで十センチは伸びたかも……」

「えへ。お義姉様の身長を抜くのも、もう少しだと思います」

「これからお義姉様のご期待に添えられるよう、鍛錬にも力を入れます！」

「それで今日は、」

「あ」

「え？」

「しょ、留学せ、え？」

「明日から、留学に？」

（一体、それ、……なんにち？）

「き、聞いて、おりません」

「ご当主様からもそのような話、聞いて……」

「ち、違います！」

「お義姉様が奨学生に選ばれたのは、本当に本当に素晴らしいと！」

「おもって、おります」

「ほ、本当に明日からなんですか？」

「いつまで？」

「三ヶ月とか、いえ、二週間くらいの短期留学で、」

「あ」

「三年、長期、留学」

「そ、そう」

「なん、ですか」

「三年も……」

（この、つまんないお屋敷で、一人……）

（おねえさまの、いないせいかつ）

「僕、僕！ 会いに行っても、」

（いつだ、僕が行けそうな時……えっと、えっと、えっと）

「そ、そう！ 長期休暇の間なら構いませんか!？」

「もちろん、勉強も、鍛錬も頑張ります！」

「お義姉様のご期待に添えられるよう、頑張りますから……!」

「本当に!？」

「よ、良かった……」

「明日、笑顔でお義姉様を見送りできるよう、努力致します」

（せめて、笑ってお見送りたいし……）

（……どさくさに紛れて抱きしめてもいいかな……）

（お別れの、……あいさつ、みたいな……）

「今日の訪れは、その、この話をするために……？」

「そ、う」

「では、もうお帰りになられ、」

「んやう!？」

「あ」

「あは」

「僕の躰、に、来てくださったのですね」

「はい、はい……！」

「存分に、躰けて下さいませ」